

都道府県別賞一等

もしもの時のお守りとして

群馬県 太田市立太田中学校 三学年

羽中田 桜花

新型コロナウイルス感染症が五類に移行して初めての夏休み、久々の家族旅行や友達との遠出で充実した夏休みを送るはずだった。楽しみにしていた今年の夏。しかし、ある日、突然の体調不良からの高熱。二十四時間対応の救急病院へ行き検査すると、なんと、私は新型コロナウイルスに感染してしまっていた。三十九度を超える高熱、焼けるような喉の痛み、頭が割れるような激しい頭痛、体中の骨が折れてしまったのではないかと思えるほどの全身の痛みが続いた。正直、新型コロナウイルスはこんなに辛く苦しい症状があるとは思っていなかった。食べ物はおろか飲み物さえも飲み込むのが辛い状況。ゼリーやアイス、スポーツドリンクを口にするのがやっとだった。

五類に移行しても、新型コロナウイルス感染者の症状が軽くなつたわけではない。また、濃厚接触者の外出自粛は求められなくなったといっても、実際には、周りの人に移す危険性が軽減したわけでもない。これ以上感染を広げないために、父は、家の中でもすれ違うこともないように自室に籠ってもらっての完全隔離生活。弟は、学童保育を休んで別室で母と隔離生活。母は仕事を休み、看病のための必要最低限の接触での隔離生活。職場内感染を防ぐために、ある程度の期間、仕事を休まなければならなかった。一日中、各自各々の部屋に閉じ籠っているのだから、家庭内のエアコン使用量も必然的に増え、電気代金も尋常ではない。また、もし母が感染していたら、母の作った食事から感染したら困るとの心配から、家族全員、スーパードのお弁当やパンなどの出来合いの食事での生活。もちろん食費も跳ね上がった。いつも以上にお金がかかるのに、仕事を休んでいるのだから、その分お金を稼ぐことができない。こんな時、もし生命保険の給付金があったら、新型コロナウイルス感染によりかかった費用を補填できても助かっただろうと思った。

実際、母の職場の人で、五類に移行する前に家族全員で新型コロナウイルス感染してしまった方がいる。その方は、生命保険に加入していたそうだ。その時は、生命保険が適用されて、自宅療養でも給付金が出たそうだ。その方は、「給付金のおかげで本当に助かった。」と言っていたそうだ。私は、ただでさえ病気などで精神的にも肉体的にも不安で大変な時に、経済的な面で心配事が軽減すると、誰でも助かるし、嬉しいだろうと思った。

新型コロナウイルスに感染する前までは、私は、『多分感染しないから大丈夫だろう。』

第61回中学生作文コンクール

もし感染したとしてもきつと風邪くらいの症状で治まるだろう。』と思っていた。もちろん感染対策を怠っていた訳ではなく、手洗い、うがい、マスク、消毒などには十分気をつけていたつもりだった。でも、感染対策をしても感染してしまうこともある。私は、幸い一週間ちよつとでほぼ元通りの生活が送れるようになった。たった一週間でも不安を感じ、生命保険の給付金が出ればどんなに助かるだろうと思った。これが、新型コロナ感染ではなく、もっと重い病気、そう簡単には治らない病気にかかったり、大ケガを負って、長期間の入院や治療が必要な場合、精神的、肉体的負担はもとより、経済的負担も、さらに大きいと思う。そんな時、生命保険は、とても大切なものだと思った。もし、生命保険に未加入で、全て自分で支払わなければならなかったら、金銭面で入院をちゆうちよしたり、十分な治療が受けられず、命に関わることもあるかもしれない。だからこそ、不安を軽減し、安心を生む生命保険は必要なものだと思う。もしもの時の備えとして、自分自身のためでもあり、周りの人のためでもあると思う。

もちろん病気やケガをしないことが一番だが、私も将来自分で働き生命保険の保険料を支払えるようになったら、もしものことを考えて、お守りとして生命保険に加入したいと思う。